

説本を作者の顔写真入りで広 います。受講生のほとんどは 料やテキストに投資した数方

論壇時評

〈上〉

中嶋 嶺 雄

新年の論壇各誌は、当然のこ とながら日米関係にスポットを 当てている。

最近、四週間のうちに二度訪 米した山崎正和は「日本を語る

文化



山下 大五郎・画

この「憂鬱」(新潮45+)と題 する小論のなかで「あらためて 肝に銘じたことは、日米関係に おける日本の位置の難しさといふ ことであり、もういっぺん、 世界のなかでの日本の社会と文 化の説明に『さ』といふこと があった」と述べている。

日米関係の難しさ

▲山崎正和「日本を語る」の憂鬱」など

「防衛」めぐり本音の議論

ワシントンのスタッフ記者 スティックな反応を示すのは驚 明ではあるまい」という五十嵐 の主張に私も賛成である。 こうした日米関係について、 シカゴ大学の入江昭は今日「日 米ギャップとは何か」(世界) 「戦争と平和の文化的基盤」 (中央公論)といふ二本の論文 を書き、日米関係における文化 的側面、文化的相互依存性の重 視という自論を重ねて展開して いる。

大連のアカツカ

六年前の中国旅行のあちこち として冬装の存在を求めたり、 園芸事典を見ていて、桜の 幹を撫でたりした。そして、 日本と中国と台湾の旗幟と出 桜の花を眺めて春の行旅を築 年ほど前に静寂

日本に向けられた やり場のない不満

そうしたなかでの中曽根訪米 を論じた五十嵐武士がアメリカ で感ぜられた「シッパ・ヌ タイル」(朝日ジャーナル・一 月二十一日号)は「一般のアメ リカ人が豊かさを喪失すること への危機感を抱き、やり場のな い不満を日本に向けてきてい る」ばかりか「心ない政治家が 人種偏見をむき出しにして」「テ マゴク」的の反日感情を煽るよ うになっている」といふ。 だが「日本側でもナショナリ

感を含ませ、世 界の絵画劇にも も敏感な試みを してきた画家と 書いても、これ が紹介や批評に なるかどうか。



田村 孝之介「裸婦」

日米間の文化ナショナリズム を排しつつ「文化上のギャップ を現状のままにして、短絡的に 軍事的充実のみを行うのは」 好ましくない、という入江の立 論に異存はないが、いささか論 議が間延びしていて、焦点がず れている感なきにしもあらずで あった。

注目される天谷氏 の「町人国家」論

結局、日米関係は、日本論へ とつながってゆかざるを得な い。「Voice」では創刊五 周年記念シンポジウム「日本の 二が防衛、経済、科学技術の三 グランドデザイン」で山本七 平、日下公人、小島慶三、速水 優、武山泰雄、牛尾治朗が日本 からの防衛論を展開する外務省の岡 のシナリオを多面的に論じ、江 崎にたいして、通産省OBの天 藤淳「戦後」は夢か幻か」 谷が冒頭から「根本的な疑問が ありませう」として、「専守防 衛」論ではなく、「自由世界の 防衛のための役割と責任」論か ら、そのコストとしての「町人 国家」論を導いているのが注目 量については相谷一彦さんに「 〇〇%、二〇〇%賛成です。… の議論が出てきたといふべき

美術展

- ★山倉研志、渡辺正宏、松尾 永樹3人展 京橋3/5(かね) あとG1(29日まで)
- ★北川健次、馬場章銅版画二 人展 港区南青山5/1(北村) ル内コーシースペース(29日ま まで)
- ★高野英之助油絵展 銀座 7/10新井画廊(29日まで)
- ★佐久間耕太郎個展 銀座1 /6アートギャラリー(29日 まで)
- ★稲葉一郎個展 日本橋本石 町4/2とぎわ画廊(29日ま まで)
- ★三好美紀個展 銀座1/6キ ャラリー(29日まで)

に陥っている「核の傘」論への 根本的な疑問を真摯(しんし) に問うているものである。 私は竹岡流の核軍縮運動には 同意できないが、今日の時代の 軍事と防衛を考える際に、だれ もが心のどこかで感じているで ある矛盾と不安を、竹岡は本 心で語っている、と私は読んで だ。

「中央公論」の討論「日本の安全保障と核軍縮」